

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 山屋 祐太さん(岩泉町)

執筆者 宮古農業改良普及センター岩泉普及サブセンター 千葉彩香

岩泉町で初となる第三者継承を実現し、令和2年に就農した山屋祐太さんを紹介します。

町外の非農家出身の山屋さんですが、幼い頃から、岩泉町で酪農を経営する祖父のもとへ盛岡市から通い、牛の世話を手伝っていました。その当時から、「将来は酪農家になりたい」という志を抱いていたそうです。

やがて農業高校に進学し、葛巻町の酪農家での住み込み実習等を経て、平成 27 年に祖父母の住む岩泉町へ移住。祖父の手伝いをしながら、酪農ヘルパーや牛群検定員として働いていました。

当時、酪農ヘルパーとして通っていた酪農家に山屋さんの仕事ぶりが評価され、「後継者がいないので経営を引き継いでくれないか」と声をかけられました。酪農家になるのが夢だった山屋さんは、経営を継承することを決意。半年間の研修を経て、令和2年 10 月に酪農経営を継承し、就農しました。

さらに、高齢となり酪農から黒毛和牛繁殖に移行した祖父の経営も継承し、現在は、乳牛 80 頭と肉用牛 10 頭の酪農を中心に、黒毛和牛繁殖を組み合わせた農業経営を行っています。

「酪農ヘルパーの経験から、多くの酪農家の技術や工夫を実践的に学べた」と語る山屋さん。実際に、子牛の衛生管理を徹底する酪農家の取組を参考に、令和4年度、担い手育成特定資産事業の「新規就農スタートアップ支援事業」を活用し、「温水高圧洗浄機」を導入しました。

これにより、洗浄作業の効率化が図られ、衛生管理の時間短縮につながりました。さらに、冬季の牛体洗浄におけるコールドストレス軽減の効果も期待されます。

非農家出身で、第三者継承により就農への道を切り拓いた山屋さん。後に続く担い手の方々の後押しとなるよう、山屋さんの今後ますますの活躍が期待されます。



牛舎内で作業をする山屋さん



令和4年度事業で導入した温水高圧洗浄機